JAPAN CREATIVITY SOCIETY
日本創造学会
JCS NEWSLETTER

●第39回日本創造学会研究大会●

大会テーマ **『イノベーションと創造性』**

～アイデアをいかにイノベーションにつなげるべきか！？～

2017年9月9日(土)-10日(日)

Idea
Creativity
Innovation

Keio University
1858
CALAMVS GLADIO FORTIOR

会場: 慶應義塾大学
日吉キャンパス
来往舎 1階・2階

慶應義塾大学
来往舎

前野隆司 大会実行委員長
慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント
研究科委員長・教授
日本創造学会理事

当麻哲哉大会副実行委員長
慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント
研究科教授
日本創造学会会員

白坂成功大会副実行委員長
慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント
研究科教授
日本創造学会会員

日本創造学会は、1979年の創立以来、組織や社会の創造性を育成するために、様々な創造技法開発など、創造性に関する学術研究分野をリードしてきました。近年では、単にアイデアを出すだけではなく、出て来た斬新なアイデアをいかに革新的・破壊的イノベーションにつなげるかが問われつつあります。このため、今年度の大会では、『イノベーションと創造性～アイデアをいかにイノベーションにつなげるべきか！？～』をテーマとします。

具体的にアイデアをイノベーションにつなげてきたデザイナーや実践家・研究者の方にお集まり頂き、次世代をいかに創造すべきかについての分野横断型の議論を深めたいと思います。会員の方も、非会員の方も、ふるってご参加ください。

◆-◆-◆- 研究大会要項 -◆-◆-◆

※発表希望者は締切日にご注意下さい。

参加方法: 学会事務局までメールで参加申込書を送付ください。（学会ホームページよりダウンロードできます）

発表申込:6月末日、研究発表論文の締切:7月末日厳守

参加申込:当日まで可、但し事前払い受付は8月末まで(発表者以外の方)

大会内容: 講演会・パネルディスカッション・懇親会・研究発表など

〈発表論文掲載料〉

①原稿 (A4, 1680字)×4枚 : 2000円
②1枚追加ごとに1000円

※論文の査読はありませんが、論文執筆要綱に従った形式で投稿して下さい。記載内容は自己責任となり、訂正の依頼等は受け付けられませんのでご了承ください。

懇親会費 5000円(希望者)
懇親会場:キャンパス内英国風パブHUB

〈大会参加費〉

	正会員	学生会員	非会員
事前払込み／	3000円	2500円	4000円
当日払い ／	4000円	3000円	5000円

※1日のプログラムのみ参加希望の場合は参加費無料、資料代のみで参加できます。

〈資料代〉
事前払込み／1500円 当日払い／2000円

第39回研究大会スケジュール（予定）

1日目　9月9日（土）

時間	プログラム
9:30～	受付開始
9:55～	開会挨拶
10:00～12:00	研究発表 （発表20分質疑5分交替5分　予定）
12:00～13:00	昼休み・役員会
13:00～14:30	研究発表 （発表20分質疑5分交替5分　予定）
14:40～15:30	基調講演1（来往舎シンポジウムスペース） 「創造とコラボレーション」 濱口秀司
15:40～17:30	パネルディスカッション 「アイデア・デザイン・イノベーションを創造するには!?」 田子學、太刀川瑛弥、中村勇吾、白坂成功
17:30～18:00	総会・学会賞表彰式
18:30～20:30	懇親会 キャンパス内英国風パブHUB

2日目　9月10日（日）

時間	プログラム
10:00～12:00	研究発表 （発表20分質疑5分交替5分　予定）
12:00～13:00	昼休み
13:00～13:50	基調講演2（来往舎シンポジウムスペース） 「目的工学と創造性」 紺野登
14:00～17:00	研究発表 （発表20分質疑5分交替5分　予定） ワークショップ（予定）
17:00～17:10	閉会挨拶

※スケジュールは都合により変更になる場合もございます。

慶應義塾 Keio University　JAPAN CREATIVITY SOCIETY

◆基調講演１◆ 9/9(土) 14:40-15:30 来往舎シンポジウムスペース

「創造とコラボレーション」

講演者：
濱口秀司

Zibaエグゼクティブフェロー、monogotoCEO
慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特別招聘教授

～講演者プロフィール～

京都大学卒業後、松下電工(現パナソニック)にて全社戦略投資案件の意思決定分析担当。98年米国のデザインコンサルティング会社zibaに参画。世界初USBフラッシュメモリーのコンセプトをはじめとする数々のイノベーションをリード。その後パナソニック電工新事業企画部長、パナソニック電工米国研究所の上席副社長を歴任。2009年zibaにリジョイン。2013年米国ビジネスデザインファーム monogotoを創業。

◆基調講演２◆ 9/10(日) 13:00-13:50 来往舎シンポジウムスペース

「目的工学と創造性」

講演者：
紺野　登

KIRO株式会社代表　多摩大学大学院教授
慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特別招聘教授

～講演者プロフィール～

早稲田大学理工学部建築学科卒業。株式会社博報堂を経て、現職。知識創造、イノベーション経営、デザイン思考／マネジメントなどの研究と実践を行う。一般社団法人Japan Innovation Network代表理事、一般社団法人Future Center Alliance Japan代表理事、京都工芸繊維大学新世代オフィス研究センター(NEO)特任教授、東京大学i.schoolエグゼクティブ・フェロー。

◆◆◆パネルディスカッション◆◆◆

9/9(土) 15:40-17:30

テーマ: 「アイデア・デザイン・イノベーションを創造するには!?」

create ▲idea▲design ▲ innovation

■パネリスト■

田子學

株式会社エムテド(MTDO inc.)
代表取締役 アートディレクター
慶應義塾大学大学院システム
デザイン・マネジメント研究科特
任教授

東京造形大学II類デザインマネジメント卒。㈱東芝を経て、家電ベンチャーリアルフリートの創設に参画後、MTDO inc.を創設。企業や組織デザインとイノベーションの研究を通し、広い産業分野においてコンセプトメイキングからプロダクトアウトまでをトータルにデザインする「デザインマネジメント」を得意としている。ブランディング、UX、プロダクトデザイン等、一気通貫した新しい価値創造を実践、実装しているデザイナー。

太刀川瑛弼

NOSIGNER代表
慶應義塾大学大学院システム
デザイン・マネジメント研究科特
別招聘准教授

ソーシャルデザインイノベーション(社会に良い変化をもたらすためのデザイン)を生み出すことを理念に活動中。建築・グラフィック・プロダクト等のデザインへの深い見識を活かし、複数の技術を相乗的に使った総合的なデザイン戦略を手がけるデザインストラテジスト。

中村勇吾

ウェブデザイナー/
インターフェースデザイナー/
映像ディレクター

1970年奈良県生まれ。
東京大学大学院工学部卒業。多摩美術大学教授。1998年よりウェブデザイン、インターフェースデザインの分野に携わる。2004年にデザインスタジオ「thaltd.」を設立。以後、数多くのウェブサイトや映像のアートディレクション/デザイン/プログラミングの分野で横断/縦断的に活動を続けている。

白坂成功

慶應義塾大学大学院システム
デザイン・マネジメント研究科
教授

三菱電機株式会社を経て現職。
専門分野:システムズエンジニアリング、イノベーション、イノベーティブデザイン、コンセプト工学、モデルベース開発、宇宙システム工学、システムアシュアランス/機能安全、標準化等。宇宙開発から社会システム、デザイン方法論、安全・安心デザインまで、デザインするための研究・教育を実施。日本創造学会会員。

【会場までの交通のご案内】

所在地:〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1 慶應義塾大学日吉キャンパス
日吉駅(東急東横線、東急目黒線/横浜市営地下鉄グリーンライン)徒歩1分

【 主要駅から日吉駅までの所要時間】

東京駅	JR山手線(渋谷・品川方面行き) 所要時間約17分	目黒駅	東急目黒線 所要時間約17分	日吉駅
新宿駅	JR山手線(渋谷・品川方面行き) 所要時間約7分	渋谷駅	東急東横線 所要時間約20分	日吉駅
横浜駅	東急東横線 所要時間約17分			日吉駅

＊～＊第2回西日本支部研究発表会開催報告＊～＊

西日本支部長　北門達男

去る6月3日の午後、日本創造学会西日本支部第2回研究発表会が近畿大学経営学部で開催されました。

第一部は、基調講演でした。今回、徐方啓会長のご尽力で中国職業能力開発大学校校長を務めておられる塚本真也先生をお招きして「創造力育成の方法～アクティブ・ランニング手法による創造力の評価とその増進～」をテーマとする基調講演をしていただきました。塚本先生は工学分野におけるデザイン教育の第一人者で、岡山大学工学部で教鞭を執られておられた時は、全国大学生アイディアコンテストなどで数多くの賞を獲得したゼミ生を多く育成されました。また、先生ご本人も内山勇三科学技術賞、精密工学会功労賞など40余りもの各種学会賞を受賞されている優れた研究者です。基調講演は、アクティブ・ラーニングの実演ともいえるほど活気が溢れ、質疑応答に加わった方々は20名、全参加者の4割を占めていました。

第二部は口頭発表でした。正会員7名、学生会員2名がそれぞれ最近の研究成果を披露されました。詳しい情報はプログラムをご参照ください。

その後、懇親会を行い、参加された9名の方々は大阪の風味を感じる料理を楽しみながら歓談されました。来年も多くの会員が参加されることを期待しております。

日本創造学会西日本支部第2回研究発表会プログラム

日　時：2017年6月3日　　場　所：近畿大学経営学部２１号館

13:15-14:25	特別講演　会場：２１－４２４教室　司会：徐　方啓（日本創造学会会長）			
講師：塚本真也（中国職業能力開発大学校校長）「創造性育成の方法～アクティブ・ラーニング手法による創造力の評価と促進～」				
14:25-14:35	休　憩　と　移　動			
14:35-17:40	研究発表　　会　場：２１号館８階会議室			
		登壇者	所　属	テ　ー　マ
14:35-14:40	支部長挨拶	北門達男	近畿大学	西日本支部第２回研究発表会開催にあたって
14:40-15:00	論文発表①	辻　周吾	流通科学大学	日本企業の組織文化における異文化間コミュニケーション摩擦について
15:00-15:20	論文発表②	柳　偉達	近畿大学	中国寧波市の流通小売業事情
15:20-15:40	論文発表③	于　渓	近畿大学大学院博士後期課程	日本企業におけるオープン・イノベーションに関する考察
15:40-16:00	論文発表④	川路崇博	久留米大学	クリエイティブ経済活動のと地域
16:00-16:20	論文発表⑤	北門達男	近畿大学	英語上達に関する一考察
16:20-16:40	論文発表⑥	久野敦司	PatentIsland株式会社	発明能力評価システム
16:40-17:00	論文発表⑦	近藤健次	北陸先端科学技術大学院大学博士後期課程	創造性に関連するグループワークの分類
17:00-17:20	論文発表⑧	徐　方啓	近畿大学	社会イノベーションについての一考察
17:20-17:40	論文発表⑨	姜　理恵	早稲田大学アントプレニール研究会	在日韓商の起業家特性とEO―焼肉店経営者を対象にした調査から―
17:45-19:00	懇親会（希望者のみ、会費￥2,000）			

塚本先生と徐会長

講演中の塚本先生

ディスカッションの風景

質問者

▲▼▲第48回クリエイティブサロン（2017年 3月11日）開催報告▲▼▲

第１部講演会：「新興国への事業展開のポイント」

講師：岡部聰氏 （東海東京フィナンシャル・ホールディングス㈱顧問、川崎汽船㈱ 社外取締）

科学では、理論で仮説をたてる「書斎科学」と、それを実証するための「実験科学」とが大変進んでいるが、世の中でどんなことが起こっているかという「野外科学」、すなわちフィールドサイエンスが欠けている。実験室の中のようにはきちんと整理できない、混沌とした物事をあるがままに理解し、その全体像を把握することにより世の中のニーズが見えてきて、社会の合意形成につながる。そのためのプロセスとして、私は「野外科学」を進めるべきだと考えている。この野外科学の考え方を手法として体系化させたものが、「ＫＪ法」である。
私は「ＫＪ法」創始者である川喜田先生の書生として寝食を共にし、その手法を学んだ。
相手の目線にあわせ、フィールドに飛び込んで問題点、ニーズを見つけ出すという考え方は、社会人になり新興国でのビジネスに取り組むうえで、大変参考になった。
インドネシアでは鉄板を折り曲げただけのボディーという常識破りのアジアカー「キジャン」の開発。中国ではモータリゼーションの先駆けとなる自動車教習所の設立。現地政府と官民一体で行った中近東初の自動車整備学校の設立。アジア地域で開発から生産まで各国でネットワーク化した「ＩＭＶ」。巨大市場インドへの参入。ビジネスを超えた信頼関係を築いた現地パートナー。などは野外科学的発想を実践できた具体的な好例となる出来事である。
このような経験から培った「新興国への事業展開のポイント」を整理してみると、パイオニアワークへの取り組み方が見えてくる。現地目線で物事を判断し、その時に最善と思われることに取り組んでいく。
『道を創る仕事（パイオニアワーク）』の課題、テーマは身の回りにどこにでもある。企業人であれ、個人であれ、新興国でなくとも、新しいことにチャレンジしたい、自分で道を拓きたいと願う人にとって、私の実体験がなんらかの参考なればと思う。 （記事: 岡部聰）

第2部ワークショップ：「フェイクKJ法から本物のKJ法へ　KJ法シミュレーションで学ぶ」

講師：國藤進氏（北陸先端科学技術大学院大学名誉教授）

文化人類学者川喜田二郎KJによって創生されたKJ法は、日本では1970年代に一大ブームを起こし普及していった。1980年代の日本の自動者産業を勉強したアメリカの研究者はKJ法の方法論であるW型問題解決学を吸収・発展し、デザイン思考という形態で普及していった。その際、KJ法の本質を分類技法ととらえ、発想技法としての本質を忘れてしまった。そこでKJの原著論文および三村修の修士論文から、KJ法の本質である発想のプロセスを学べる個人KJ法シミュレーションを体験していただいた。
時間の関係で、シミュレーションの後半を急いでしまったが、ボトムアップ的な「次元の発見が最後」という本質は、アンケートの集計でも大多数の人に分かってもらえた。「次元の設定が最初」というトップダウン的なフェイクKJ法に踊らされてはならない。

（記事: 國藤進）

▲▼▲第49回クリエイティブサロン（2017年 5月13日）開催報告▲▼▲

第１部講演会：「メンテナンス従事員の達成感を創出する、家族に自慢できる仕事にする」

講師：川上幸一氏　（東京メトロ総合研修訓練センター所長）

地下鉄トンネルのメインテナンスは、日頃、お客様の目に触れる仕事ではない。当たり前の日常を提供するために、毎晩、終電から始発までの限られた時間の中で、トンネルの状態をしっかりと検査し、記録をする。また、検査結果を基に、修繕計画の立案、又は大規模な補修・補強を必要とする箇所を定め、工学的な検証を行う。これまでは、検査の結果をPCに入力し、写真を整理し、補修計画を立案するという膨大な作業の為、検査を実施してからその結果を共有するまで約3か月を要し、紙の出力枚数は年間で5000枚程度に上っていた。また、メインテナンスは暗黙知が多く介在する領域で、補修の優先度、大規模補修・補強を実施する箇所の決定は、ベテランの経験に寄るところが大きくあった。地下鉄トンネルメインテナンスのICT化では、

・検査、補修記録のデータベース化
・Beaconを利用した地下トンネルにおける位置情報の取得
・トンネル検査用iPadアプリケーションの開発による、過去検査閲覧、検査記録の効率化
・蓄積されたデータを現場に分かりやすく提供するための可視化（特許取得）
・統計分析を用いた、トンネル健全度の定量化（特許取得）

を実現するシステム構築を進め、可視化及び数値化されたデータを全員で共有しながら、ベテランから若手までが、議論を行い維持管理方針を決定していく仕組みを構築した。これにより、検査結果を1日で共有し、ペーパーレスという効率化、データの可視化・定量化による維持管理の質の向上を実現できた。この仕組みは、各方面からの取材を受けた他、米国APPLE社のサイトに、iPad活用事例として紹介されるに至った。「当たり前の日常を提供する」為に、夜間トンネル内で働いているメンバーにスポットライトが当たり、世界でも最先端の地下鉄トンネルのメインテナンスを実施しているというプライドを創出することが出来た。今回のクリエイティブサロンでは、これらのことについて発表させて頂き、参加者の方々に、地下鉄トンネルで働く裏方について高い関心を頂き、とても有意義な場であった。これからも、この仕組みを更に深度化するとともに、拡大していきたいと思う。　（記事: 川上幸一）

第2部ワークショップ：「LTE変革者、オープンイノベーションでかく戦へり」
－最果ての地で高速インターネットの実現を－

講師：佐藤克彦氏　日本無線株式会社ソリューション事業部LTE事業推進グループ長(担当部長)

本発表では、オープンイノベーションによって実現したユニークな先端モバイルシステムの開発事例、途上国における具体的な商用化事例を紹介し、オープンイノベーションを成功させるための要素と課題を提起、ワールドカフェ形式による対話を用いて、今後のさらなる発展のためのアイデアの創出を行った。

まず、モバイルシステムとその発展にかかわるインターネットの歴史、他の無線通信技術との違いを示しながら、一方で中国と欧州ベンダにほとんど占有されている先端モバイルシステムの世界市場の現状について紹介した。そのような中、開発を始める動機となる当時の外部環境の変化（急激に変化する技術価値やビジネスモデルの変化）と、実際の開発と事業化への厳しいハードル、一方で当時予見されていた公共分野への新しい市場に触れ、オープンイノベーションによる開発を選択していった経緯を述べた。イスラエルをはじめとした世界7カ国に渡るオープンイノベーションによる開発は、驚異的なスピード開発と、独創的なシステムの創造をもたらし、オープンイノベーションに対する一般定義とその実例を対比させながらその有効性をレビューした。発表では、世界に先駆けて開発した可搬型モバイルシステム等を紹介し、途上国における実運用を通して、世界最果ての地での通信事情、それに応えるための事業化へ道のりを紹介した。また、これまで音声を中心とした公共通信システムから映像中心のシステムへの移行、日々進化するコンピュータテクノロジとの連携について今後の展開を予想した。

最後に、オープンイノベーションを通して感じる世界から見える日本として、未だ日本ブランドが健在であり、オープンイノベーションを進めていく上での優位性と、一方で自前主義による過去の成功に固執しオープンイノベーションを阻害する環境を指摘、オープンイノベーションを推進するための課題をまとめた。

ワールドカフェでは、発表に対する感想を共有しながら、開発したシステムをどのように発展させていくかを対話し、多くの有意義なアイデアが提案された。ワールドカフェを通して、イノベーションにかかわる各分野の専門家達と対話し、オープンイノベーションの意義を再確認し、これからの事業展開のための多くの知見を得ることができたことは、大変有意義であった。　（記事: 佐藤克彦）

第50回クリエイティブサロン開催のお知らせ

研究会担当理事 國藤進 豊田貞光

開催日:2017年7月22日(土)13:00～18:00 会場:慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎

第1部 講演会テーマ: 『新たな価値を創る方法論としてのForesight Creation』
講師:松波晴人氏 大阪ガス行動観察研究所所長、兼(株)オージス総研行動観察リフレーム本部

(講演会概要)

イノベーションが求められる中、「新価値創造の方法論」として様々な方法論が提唱されているが、この分野における理論とメソッドはまだ確立されているとはいえない。大阪ガス行動観察研究所は、これまでの実績(プロジェクト累計1,000件)を踏まえて、「新価値創造の方法論」の理論とメソッドを構築することを試み、Foresight Creationと名付けた。この方法論においては、必要とされる能力を「8つの玉」の理論としてまとめ、それぞれの「玉」を育成する方法論を開発した。このForesight Creationを大阪大学でForesight Schoolとして学生を対象として実施した結果、1)新たな価値を生む消しゴムが商品化される、2)EDGEコンペにて阪大チームが優勝する、といった成果が得られた。

本講演では、Foresight Creationの方法論とはどういうものなのか、新価値創造において重要な点はどこにあるのか、を解説する。

第2部 ワークショップ:『Foresight Creationにおける特に重要な「玉」の理論と実践』
講師:松波晴人氏 大阪ガス行動観察研究所所長、兼(株)オージス総研行動観察リフレーム本部
安松 健 氏 大阪ガス行動観察研究所研究員、兼(株)オージス総研行動観察リフレーム本部

(ワークショップ概要)

Foresight Creationとしてまとめた「新価値創造の方法論」においては、必要とされる能力を「8つの玉」としてまとめた。その内の、特に重要で新規性の高い「玉」を2つ、ワークを通じて共有したい。
1つ目はマインドセットである。これまで、「新価値創造」についてはスキルの面が注目されてきた側面があり、もちろんスキルは重要なのであるが、今回のForesight Schoolの実践を通じて得られた学びは、スキル以前に「マインドセット(特にチャレンジ精神や自己効力感、他己実現など)」があることが重要である、ということである。また、もう一つは、行動観察を通じて「他者を理解する」と同時に、「自分を理解する」という点である。つまり、新しい価値を生むためには、自分がそもそもどういう枠組みにとらわれているのか自分で把握するとともに、自分の意志を明確にすることが必要である。ワークショップにおいては、この「2つの玉」の実践を行う。

講師:松波晴人氏

大阪ガス行動観察研究所所長。兼(株)オージス総研行動観察リフレーム本部。
サービス学会監事。神戸大学大学院工学研究科修士課程修了後、92年に大阪ガス株式会社入社。米国コーネル大学大学院にて修士号(Master of Science)取得ののち、和歌山大学にて博士号(工学)を取得。2005年、行動観察ビジネスを開始。2009年に大阪ガス行動観察研究所を設立。著書に『ビジネスマンのための「行動観察」入門』(講談社)、『「行動観察」の基本』(ダイヤモンド社)、寄稿に『ハーバードビジネスレビュー「行動観察×ビッグデータ」特集』がある。

講師:安松健氏

2001年大手金融機関に入社し、顧客行動の調査・分析を担当。その後人材開発事業会社にて、マーケティング、財務などの問題解決型研修の企画・運営、ビジネスリーダーの能力開発に従事。
現在は、調査分析からコンセプトデザインまでを担当し、創造活動のための場のデザインやファシリテーションを実践しながらクライアントの価値創造を支援。「行動観察×デザイン」、「行動観察×AI」に取り組む。

《スケジュール》

12:30	開場
13:00-14:30	第1部講演会
14:45-17:45	第2部ワークショップ
18:00～	別会場にて懇親会

参加費: 会員/無料 非会員/参加費1000円
※懇親会(希望者)は4,000円程度の実費

会 場: 慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎
所在地: 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1
日吉駅下車(東急東横線、東急目黒線/横浜市営地下鉄グリーンライン)徒歩1分
申込み方法:
参加希望の方は、学会ホームページより、メールで下記についてお知らせの上、お申し込み下さい。
[氏名/所属/会員or非会員/懇親会参加の有無]

日本創造学会論文誌Vol.20（2016）論文賞

5月13日に行われた学会賞委員会での審査の結果、論文誌Vol.20論文賞は下記の論文に決定致しました。

論文タイトル：「アソビジョン・クエスト
ー遊びの感動根源探求に基づく自分軸構築法ー」
著　者　：　國友　尚・前野隆司

論文タイトル：「個人特性を媒介したほめ言葉と共行動の効果の検討」
著　者　：　池田和浩・西浦和樹・川﨑弥生

※授賞式は9月9日の研究大会・総会にて執り行われます。

入会者（入会順）

✦ ✦✦新入会員紹介✦✦✦

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
石鍋大輔	正会員	京都造形芸術大学	東京都	広告 マーケティング
武田正利	正会員	㈱電通国際情報サービス	東京都	
辻　周吾	正会員	流通科学大学	大阪府	異文化コミュニケーション 日本語教育
有賀三夏	学生会員	東北芸術工科大学 北陸先端科学技術大学院大学	山形県	臨床心理アートセラピー 美術教育
久野敦司	正会員	PatentIsland㈱	京都府	特許戦略 人工知能
阪井和男	正会員	明治大学	東京都	経営学 教育工学
今村　新	正会員	㈱NTTドコモ	東京都	経営管理学 企業内ICT情報システム構築方法論
安藤正行	正会員	㈱クレアン	神奈川県	CSR(企業の社会的責任) 知識創造経営
三浦幸太郎	学生会員	北陸先端科学技術大学院大学	東京都	遠隔教育システム オープンソースソフトウエア
藤原由美	正会員	産業能率大学	東京都	アクティブラーニング コミュニケーション
徳永達哉	正会員	三井化学㈱	千葉県	理論物理（素粒子論） 技術経営（製品設計論）
本田杉子	学生会員	慶應義塾大学大学院	東京都	工業デザイン UXデザイン
馬場康之	正会員	㈱毎日放送	京都府	
中田泰子	正会員	北陸先端科学技術大学院大学 産学官連携推進センター	石川県	産学連携
杉山　歩	正会員	山梨英和大学	山梨縣	サービス科学 観光学
尾澤知典	学生会員	慶應義塾大学SDM研究所 横浜国立大学教育学研究科	神奈川県	初等中等教育
片山　立	正会員	夢・アーキテクティング工房	大阪府	システムズエンジニアリング 組込みシステム

事務局メッセージ

・本年度研究大会の発表申込締切は6月末と従来より1ヶ月早まっております。発表を予定している皆様は期日にご注意下さい。
・事務局の住所・Fax番号が移転により変わりました。（左記に記載）
振替口座番号、メールアドレス・電話番号は変わりません。

（事務局：比嘉）

日本創造学会 ニューズレター
2017年6月発行（№2）
日本創造学会事務局
発行人　：田村新吾
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0015 千葉県市川市平田1-10-2
Tel　080－3465－6152
Fax　047－718－1747
e-mail：jcs-info@japancreativity.jp
http://www.japancreativity.jp/